

はばたき

橋北小学校
学校だより No.22
2014 (平成 26) 年
3月4日

今年度、最後の月になりました

早くも3月を迎えました。暖かい日には汗をにじませながら遊ぶ子どもたちの姿が見られるようになってきました。季節は確かに春に向かっていることを感じます。

3月は年度の締めくくりであるとともに、新たな出発に向かうための準備をする月でもあります。月後半は、年度末、卒業式関係等で下校の時間が変わりますが、よろしくお願いします。



今月の図書ボランティアさん作成の掲示から

【3月の予定】

3日(月)	委員会(6限)	17日(月)	図書館の本の返却、開館最終日
5日(火)	おわかれ昼食会(6年生・教職員) ※1～5年生 下校 11:40 図書貸し出し終了	18日(火)	水曜日課 下校 14:15
10日(月)	通学班別児童会(5限)	19日(水)	1～4年・6年 給食・清掃後下校 13:45 5年 卒業式前日準備後下校 15:30
12日(水)	通学班で下校(学校発 14:15 頃) 地区の「子どもを守る家」の確認を します。	20日(木)	卒業式 5・6年のみ登校
		21日(金)	春分の日
		24日(月)	給食終了
		25日(火)	修了式・離任式 下校 11:45

これまでの歩みを確かめ、これからの目標を考える

この時期になると、思い出すひとつの話があります。中学校の国語の教科書にもある「言葉の力」(作者：大岡 信)に出てくる「桜色に染められた着物」の話です。その内容の一部を紹介します。

京都の嵯峨に染織家であり、人間国宝の志村ふくみさんという方がいらっしゃいます。作家で詩人である大岡さんが志村さんを訪ねたおりに、志村さんになんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せていただいたそうです。大岡さんは、その染め色を「そのピンクは淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかで、しかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。」と表現しています。

大岡さんがその色を何から取り出したのか尋ねたところ、志村さんは、「桜からです。」と答えられたそうです。

大岡さんは、「すぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろう」と思ったそうですが、志村さんから教えられたのは、実際は黒っぽいごつごつとした桜の皮から取り出した色であるということ、しかも、この桜色是一年中最どの季節でもとれるわけではなく、桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると取り出せるということです。

この話を聞いて、大岡さんは次のように書いておられます。

「体が一瞬ゆらぐような不思議な感じにおそわれた。春先、間もなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裡にゆらめいたからである。花びらのピンクは幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの先端だけ姿を出したものにすぎなかった。」

(下線は中学校『国語2』光村図書出版から引用)

私も数年前、志村さんのこの桜色の着物に出会ったことがあります。きれいさに衝撃ともいえる感動を覚えたことを覚えています。

大岡さんは、「言葉の一語一語は桜の花びら一枚一枚だといっている。」と言われています。私たちは子どもの一語一語、その時々、行動の背後に背負うものを見とるよう努めなければなりません。

子どもの言葉をしっかり聴き、行動をしっかり見て、理解していくことなしにその子どもの今後を考えることはできません。年度末、年度初めを迎えるこの時期に改めて肝に銘じたいと思います。

温かくすてきな「6年生を送る会」(2月26日:水)



2月26日に行いました「6年生を送る会」では、卒業を迎える6年生に「ありがとう」の気持ち、「おめでとう」の気持ち、そして「がんばってください」のエールを1～5年生がしっかり届けることができました。どの学年もその学年なりに工夫を凝らし、短期間の中でよく作り上げた后感心しました。

1年生は、6年生へのお世話になった感謝の言葉と歌・劇で「**おむすびころりん**」をしました。1年生の一生懸命に演じる姿から6年生の中には、6年前に入学したころの自分の経験や、「おむすびころりん」を歌ったころの自分の姿を思い出した子どもも多くいたのではないのでしょうか。

2年生は、語りと歌で「**クレヨンの星**」をしました。いろいろな色があって、違いがあるなかでそれぞれを認め合い、仲よく暮らすことの大切さや良さをについてメッセージしました。「ちがいを豊かさに」という言葉があります。今の考え方・生き方に問いかけ、これからを考えさせるものでした。「みんなちがって みんないい」それぞれが輝いてほしいと願っています

3年生は、学校生活を題材にした手作りの「**あ・り・が・と・う かるた**」で6年生と遊びました。6年生は小学校生活をはかるたを通じて思い出したことでしょう。その後、「ね」という歌を歌いました。「いろんな ぐうぜんが かさなって／ここに こうして あなたと いっしょにすることが／ただ とても うれしい ラララ ね おじいちゃんになっても ね おばあちゃんになっても／ずっとずっといっしょにあったかく つきあってたいね ね ね」と楽しく歌いました。

4年生は、「**6年間の思い出**」を劇でユーモラスに演じ、笑いを誘っていました。プール掃除の場をデッキブラシとたわしで踊ったのは斬新でした。また、「2分の1成人式」の歌を合唱しました。6年生は10歳の時には、どんな夢を持っていたのでしょうか。そして、今卒業に当たりどんな夢を持っているのでしょうか。歌の最後に「たくさん しかってほめて 見果てぬ夢かなうように みんなで見守っていて」とあります。卒業を迎える今の心境に通じるものがあるのではないのでしょうか。

5年生は、「**6年生ありがとう**」と題して、6年生と一緒に取り組んだ運動会の組み立て体操や三四年级小学校音楽会の思い出の場面を再現したり、6年生から聞いた修学旅行の話をもとにした楽しい劇を演じたりしました。どの動きも息がぴったりでリズムが良く、「さすが5年生!」と思わせるものでした。また、全体の進行・準備もしっかりやり遂げることができ、頼もしさを感じさせてくれました。

6年生は、リコーダー奏『**ホール・ニュー・ワールド** (映画「アラジン」より)』と合奏『**木星** (組曲「惑星」より)』を聴かせてくれました。きれいなリコーダーの音色、迫力のある木星の演奏で6年生ならではの力と姿を見せてくれたと思います。

橋北小学校での初めての「6年生を送る会」でしたが、とても温かくバラエティーに富み、内容も濃い会であったと思います。このように会を作っていける子どもたちの成長をととてもうれしく感じます。6年生にとっても小学校生活のよい思い出の1ページとなったことと思います。

なお、当日は多くの地域の方々、保護者の皆さんにおいでいただきありがとうございました。



